

事業所における自己評価結果 (公表)

公表：令和6年3月1日

事業所名 コペルプラス八王子北野教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6			
	②	職員の配置数は適切である	6			
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6		・指導訓練室の前にマークを付けて、どのレッスン室を使用するのか分かりやすくしている。また「相談室」「トイレ」なども案内表示を付けている。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6		・教材の消毒、事業所内の清掃は適時丁寧に行っている。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6		・教室として改善すべき問題が発生した際は会議を開き、問題解決に努めている。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		利用者向けの満足度調査を行い、利用者様のご意見を運営に反映させている。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している		6		・事業所評価に関しては初めての実施となるため今後行っていく。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		6		・第三者評価は受けていない。今後、サービスの向上の為に必要であれば導入を検討していく。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		・行政の研修や各自研修に取り組み、教室内で研修報告を行って情報共有している。 ・社内で資格支援も行っている。	
適切 な	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6		・アセスメントシートを元に保護者様と面談を行い、療育の動画や指導員からの意見を含め多角的に計画を作成している。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6		・社内の標準化されたアセスメントツールを使用している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
支 援 の 提 供	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6		・認知面、運動課題だけではなく、「排泄」習慣や「お茶を飲む」などの生活習慣も身に付くように支援している。	
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6		・レッスン前に計画内容を確認し、計画に沿った支援となるよう努めている。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		・集団レッスンや運動課題について職員会議で話し合っている。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6		色んな教材に取り組めるようスケジュールを組んでいる。また成功体験を積めるようにスモールステップで課題を提示している。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6		・保護者からの聞き取り及びお子様のアセスメントを行い、集団への参加を進めている。 ・月末には異年齢の集団レッスンがある。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		・朝礼でその日の利用者様の情報や連絡事項を確認している。 ・月末には次月の運動課題について全員で確認をしている。また集団レッスンも1か月の流れを意識できるように支援のポイントを確認している。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6		・毎日終礼を行い、その日あった共有事項を確認している。 ・引継ぎノートや個別の記録に内容を記載し、参加できなかった職員にも周知している。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6		・日々の気づきや保護者と話した内容については記録にまとめ、速やかに対処できるようにしている。	
	⑳	定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6		・保護者様と面談を行い、定期的に目標の達成度や新たな課題について共有している。	
	関 係 機 関 や 保 護	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		・他事業所や関係機関とのサービス担当者会議に参画している。
㉒		母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6		・児童発達支援管理責任者を中心に関係機関を訪問し、情報共有を行っている。	
㉓		(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				※重症心身障害児以外が対象の為実施していない。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
者との連携関係機関や保護者との連携	②4	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				※重症心身障害児以外が対象の為実施していない。
	②5	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		6		・移行支援としての連携は図っていない。今後移行支援対象の利用者様がいれば関係機関との連携を図っていく。
	②6	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		・児童発達支援管理責任者を中心に関係機関を訪問し、情報共有を行っている。 ・希望者には就学移行シートを用意し、就学先への引継ぎを行っている。	
	②7	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		6	・八王子市で行っている研修に参加している。 ・療育センターと連携し、年長児を受け入れている。	
	②8	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		6		・障害のない社会の実現の為、事業所としてどのようなことができるのか検討していく。
保護者への説明責任等	②9	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		6		
	③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		レッスン後に保護者様とお話をしたり、適宜面談をして、お子様の発達や園での状況について共通理解を深めている。	
	③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	6		・集団でのペアレントトレーニングを行ったことがある。 ・個別での面談時に、ご家庭で取り組めそうな内容を検討してお伝えしている。	・保護者の困り感に寄り添い、ペアレントトレーニングの開催頻度を増やしていきたい。
保護者への説明責任等	③2	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		・体験や契約時に説明を行っている。	
	③3	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6		・保護者のニーズや事業所の見立てなど多角的に考慮し、支援計画を作成している。保護者様にも目標のねらいを説明し、同意を得ている。	
	③4	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		・レッスン後に話をしたり、保護者の様子を日々観察し、面談を実施している。	
	③5	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		6		・今後保護者様同士が悩みを共有できたり、安心できる場所を確保するため保護者会の開催を検討していく。
	③6	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6		・支援の内容等で、利用者様から相談があれば、教室内で協議し次回以降の療育で対応できるようにしている。	

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	③7 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6		・LINEやインスタグラムを活用して、活動報告や必要なお知らせを配信している。	
	③8 個人情報の取扱いに十分注意している	6		・書類については鍵付きの書庫で管理している。	
	③9 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		・視覚支援を活用したり、書類の文面を簡素化して伝わりやすくしている。	
	④0 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		6		地域の方に向けた取り組みについては実施できていない。安全面にも配慮しつつどのようなことができるのか検討していく。
非常時等の対応	④1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6			
	④2 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6		・定期的に訓練を実施している。	
	④3 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6		・アセスメント時やレッスン時に確認している。てんかんがあるお子様については対応方法を保護者様と共有している。 ・毎月の課題に合わせて、脱臼歴なども確認している。	
	④4 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		6	・食事提供はしていない為、医師の診断に基づく対応は実施していないが、アレルギーの状況を職員間で周知している。教室内での飲食を禁止している。	
	④5 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		・ヒヤリハット発生時に口頭で共有している。また記録に残し、社内で共有している。	
	④6 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6		・虐待防止の研修を年2回以上実施している。	
	④7 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6		・身体拘束を行うことになった事例はまだないが、虐待防止委員会を設置し組織化されている。 ・契約時に説明し、同意を得ている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。